学校関係者評価委員会報告書

一般社団法人　五常会
東北歯科技工専門学校
学校長　　渡邉　奈美

一般社団法人五常会東北歯科技工専門学校は、令和 4 年度学校自己点検評価結果をふまえ、評価委員会を実施しました。下記にその内容を報告致します。

会議名：学校関係者評価委員会
日　時：令和 4 年 11 月 21 日（月）19:00～20:30
会　場：東北歯科技工専門学校　２階　（

出席者：委員 5 名　事務局 4 名

委員	佐藤　勝　（西多賀歯科クリニック院長・宮城県歯科医師会副会長）
委員	笠原　紳　（薬師堂歯科院長・元東北大学歯学研究科）
委員	鈴木　宏明（日本平歯科医院院長）
委員	山本　洋一（株式会社メディナ　取締役）
委員	菅原　克彦（ケイエスデンタル　代表）

事務局	渡邉　奈美（東北歯科技工専門学校学校長）
事務局	小松　勝　（東北歯科技工専門学校副校長）
事務局	八巻　賢一　（東北歯科技工専門学校教務部長）
事務局	神永　聡　（東北歯科技工専門学校教務主任）

1. 開会
2. 参加委員紹介
3. 学校長挨拶
4. 資料確認
5. 職業実践専門課程の中で学校評価の役割とは再確認
6. 令和 4 年度シラバスについて
   事務局　神永から説明
7. 令和 4 年度企業連携について
   事務局　神永から説明
   今年度は、コロナの影響もあったが可能な限り対面での連携を図る努力を重ねて来た。

8. 自己点検評価項目に対する評価

自己評価は、次の９項目について評価をして頂きました。

（１）教育理念・目標、（２）学校運営、（３）教育活動、（４）教育成果
（５）学生支援、（６）教育環境、（７）学生募集、（８）社会貢献、
（９）法令等の遵守、（１０）財務

以下詳細については次の通りです。

今回の全 10 項目で自己評価は、教育成果と学生募集以外評価が前年に比べ向上したため、特に近々の課題である学生募集について広く委員の意見を伺った。

学生募集について

現在急激な 18 歳人口減少とコロナによる入学前の各学校への接触校数が、従来の約半分、一人 2 校程度に止まることから認知度の低い歯科技工学校へ入学する学生が顕著に減少傾向にある。

本校のある宮城県の技工学校もこれまでの 3 校から 2 校に減少し、本校を含め他校も入学者減少に歯止めがかかっていない状態である。

参加委員に今後も歯科技工士は必要であるかの質問に対しすべての参加委員から今後も歯科医療の中で歯科技工士の果たす役割は大きく、この状況を乗り越え、今後も宮城や東北に優秀な人材を輩出して欲しいとの発言が寄せられた。

学生募集については、広報方法の変化もあり根本的な見直しや学校運営で良いものと改善すべきことをしっかり精査し、新しい時代に即した見直す必要があるのではないかとの意見があった。

また、急速な歯科技工のデジタル化に付属施設がしっかり対応することで学校の特色や運営面でのサポートそして、何よりもこれまで本校が目指して来た新しいデジタル歯科技工を教育に取り入れることで学校の特色（ブランディン）ができ、本校としての魅力を時代に即した広報方法で広く若者や保護者に伝えることが必要との意見が出された。

学校としては、新しい取り組みとして歯科技工士の魅力ややりがいをわかりやすく大勢の人たちに発信できるように全国歯科技工士学校協会と協力してホームページを新規作成予定であるとの報告がなされた。